

ルクセンブルク経済・金融情勢（2012年6月）

【トピック】

- ・ シュナイダー経済貿易相、経済ミッションでレバノンを訪問
- ・ ヴィズラー持続的開発・インフラ相、国民議会において、ルクセンブルク市のトラム建設計画の詳細を発表。第一期区間は2017年に営業開始予定
- ・ 格付会社ムーディーズ社が、国立貯蓄銀行（BCEE）の格付けをAAAからAa1に一段階下げ

1. 製造及び建設セクター

製造セクター

第2四半期の景気動向調査では、注文数、雇用見込み等全ての指標において下落傾向が見られ、悲観的な見方が増えていることが示されている。景況感について、4・5月に比べ6月に若干の改善が見られたが、これが回復基調を示すものなのかどうかについては今後の推移を見守る必要がある。

建設セクター

第2四半期の調査によると、業況は後退気味であると見る企業が増えているが、全体的にはまだまだ良好であり、特に欧州全体との比較では好調が続いているといえる。2月に建築量が非常に低かった理由は、例年より気温が低かったという天候要因に求められるが、4月にも前年比10%減少しており、これについては天候ではなく景気動向によるものと言える。

2. 金融セクター

- (1) 12年5月末現在銀行資産残高は7,973億ユーロ。
- (2) 12年6月末現在銀行数は143行。
- (3) 12年6月末現在投資信託残高は2兆2245億ユーロで、前月比0.56%増。

3. 雇用情勢

- (1) 12年6月の季節調整済み失業率は6.1%（推計値）。
- (2) 雇用助成の恩恵を受けている人の数が増えているが、失業者の増加はそれを上回る。雇用助成を受けている人の数は失業者数には含まれないが、仮に含めると失業率は7.9%にのぼる。

4. インフレ

- (1) 12年6月のインフレ率は2.5%（前月2.5%）。
- (2) 12年の給与額（額面）の上昇率はインフレ率を下回っており、実質的には給与が下がっているという現象が見られる。同様の現象が見られた2008年はインフレ率の急上昇が原因であったが、今回は給与の増額凍結傾向が原因といえる。

※ 当国政府機関（統計局等）の公表資料や各種報道等の公開情報を取りまとめたもの。